

第4章 イスラム世界

1. イスラム世界の形成

(1). イスラム教の成立

- ▶ 経済的背景……ササン朝とビザンツ帝国の交戦状態
→アラビア半島が国際中継貿易独占、メッカ、メディナの繁栄

- ▶ ムハンマド (マホメット、メッカのクライシュ族の商人、570～632)
610 初めて唯一神 アッラー の啓示を授かる

↓
イスラム 教創始……“イスラム” = 唯一神への絶対服従
“ムスリム” = イスラム教徒、その共同体 = ウンマ

{ 啓典「コーラン」……ムハンマドに下された神の言葉
生活の規範 = イスラム法 (シャリーア) の基礎
al'Quran = “読み唱えるもの” (アラビア語の韻文になっている)
従来の多神教・偶像崇拝を、精神の墮落として批難

622年7/16 ヒジュラ (Hijrah、聖遷) ……迫害をうけメッカからメディナへ移住
= イスラム暦紀元
↳ 純粋な太陰暦 (1ヶ月 = 29 or 30日、1年 = 354日)
季節がずれて不便なので太陽暦も併用している。

(2). 教団国家形成

630 メッカ奪回 = アラビア半島統一……アラブ人をイスラム教によって統一
カーバ をイスラムの聖殿と定める

632 ムハンマド死 → カリフ (caliph, khalifa = “後継者”) を選出
政治・宗教上の指導者、但し教義決定権はない

▶ 正統カリフ 時代 (632～661)

初代アブー・バクル (632-34)、第2代ウマル (634-44)
第3代ウスマン (644-56)、第4代アリー (656-61)

征服活動開始 (ジハード、jihad = “聖戦”) ……アラブ人の対外発展
西： シリア、エジプトをビザンツ帝国より奪う
東： 642 ニハーヴァンド の戦い……ササン朝を破る (651 滅亡)

661 第4代 アリー 暗殺

▶ ウマイヤ 朝 (661～750)

シリア総督 ムアーウィア がカリフとなり世襲制に。首都 ダマスカス

※イスラム教の分裂

スンナ 派 (Sunni) ……正統派、ウマイヤ朝以後のカリフを認める
シーア 派 (Shiah) ……アリーの子孫のみを正統とする

征服活動

東： ソグド地方、西北インド (のち撤退)
西： 北アフリカからイベリア半島へ
711 西ゴート 王国を滅ぼす
732 トゥール・ポワティエ間 の戦い (= フランク王国に撃退される)

◎アラブ帝国……正統カリフ時代・ウマイヤ朝は「アラブ人第一主義」

税制面で異民族の改宗者 (マワーリー) を差別
被征服民は改宗しても ジズヤ (= 人頭税)、ハラージュ (= 地租) を負担
アラブ人……ウシュル (= 十分の一税) のみ負担
⇔コーランは「ムスリムの平等」を説く

(3). イスラム帝国の形成

- ▶ アッバース朝 (750 ~ 1258、首都 バグダード、第2代マンスールの時から)
アッバース家の革命

↓
◎イスラム帝国・・・イスラム教徒の平等

税制改革、先進民族のイラン人を多く登用、但しシーア派は弾圧

- ジズヤ (jizya = 人頭税)・・・異教徒の“非改宗税”として徴収
「啓典の民」(ユダヤ教徒・キリスト教徒、のち他の宗教も)は
ジズヤ納入と引き換えに信教の自由を与えられる
※「右手にコーラン、左手に剣」という俗説は偏見である。
- ハラージュ (kharaj = 地租)
征服地に土地を所有するものはアラブ人も等しく地租納入

<外征> 751 タラス河畔の戦い・・・唐を破る (この時、製紙法を入手)

<全盛期> ハールーン・アル・ラシード (第5代、786 ~ 809)

カリフの神格化・専制君主化

カール大帝(フランク国)とも通交、バグダードは東西貿易の中心

(4). イスラム世界の分裂

- ▶ イベリア半島・・・後ウマイヤ朝 (756 ~ 1031、首都 コルドバ)

ウマイヤ家の一派が建国

929 カリフを称す

- ▶ 北アフリカ・・・ファティマ朝 (909 ~ 1171、首都 カイロ)

シーア派がチュニジアに建国、のちエジプトへ

建国当初からカリフの称号使用

- ▶ バグダード・・・946 イラン人の ブワイフ朝 入城

アッバース朝から全権委譲される。(→後述)

◆イスラムの六信五行

六信・・・①. 神, ②. 天使, ③. 啓典, ④. 預言者, ⑤. 来世, ⑥. 天命

五行・・・①. 信仰告白 (シャハーダ)

・・・「アラーの他に神はなく、ムハンマドはその使徒である」と唱える

②. 礼拝 (サラート)

・・・1日5回、礼拝場所=マスジド (英語名モスク)

③. 喜捨 (ザカート)

・・・貧者のために施す。富者の義務。

現代では、制度化された救貧税 (収入の約2.5%)。

ただし、この宗教義務につけこんでの物乞いが社会問題化

④. 断食 (サウム)

・・・イスラム暦9月 (ラマダーン) は日中の飲食禁止

夜いつもより食べる。子供・妊婦・身体虚弱者・戦場にある兵士は除外。

⑤. 巡礼 (ハッジ)

・・・一生に一度メッカへ行く

(但し義務ではなく、体力と財力がある者だけでよい)

<その他、偏見を防ぐための知識>

- ・対等に扱う条件で妻を4人まで持ってよい→戦争未亡人救済が当初の目的
他の、女性蔑視と誤解されている服装などの規定も、女性を保護することが目的
- ・豚肉を食べてはいけない。→衛生上の問題か
- ・飲酒、賭け事は重罪。(現代では、厳しい国とそうでない国があるが)
- ・利息をとることを禁止=弱者救済
(ユダヤ教と対立するようになった際、ユダヤ商人が利息で儲けているのを批判した)

2. イスラム世界の発展

<東方イスラム世界>

◎イラン人

サーマーン朝 (874-999) ……イラン人による最初のイスラム王朝
→中央アジアのトルコ人をイスラム化

ブワイフ朝 (932-1055) …… 946 バグダード入城
アッバース朝カリフから全権委任され、武家政権確立 (≒幕府)
自身はシーア派だが、スンナ派アッバース家と共同統治

※ イクター 制 ……軍人に、俸給に見合った金額を徴収できる土地の「徴税権」を与える
ブワイフ朝が始め、セルジューク朝時代に完備
→のち、広くイスラム世界で行なわれる

◎トルコ人

トルコ人奴隷兵 (マムルーク) がイスラム各地の軍の主力となる →トルコ人の西遷

カラハン朝 (940-1132) ……トルコ人による最初のイスラム王朝

セルジューク朝 (1038-1157) ……初代 トググルル・ベク (1038-63)
1055 バグダード入城、ブワイフ朝を倒す。
アッバース朝カリフから スルタン の称号を授かる
(カリフ: スルタン=天皇: 幕府将軍)

スンナ派擁護者としてエジプトのファーティマ朝と対立
シリア・パレスティナを支配し、ビザンツ帝国を圧迫
⇒ヨーロッパから 十字軍 の攻撃をうけ衰退・分裂

ホラズム朝 (1097-1231)

ガズナ朝から独立しゴール朝やセルジューク朝を滅ぼす
→チンギス・ハンの遠征をうけて滅亡

ルム・セルジューク朝 (1077-1308)

セルジューク族の一派が小アジアに建国
トルコ人の小アジア支配の始まり

◎モンゴル人 ……13世紀にアジア全域を支配

1258 フレグ (フラグ)、バグダード攻略、アッバース朝を滅ぼす

↓
イル・ハン国 (1258-1411) ……首都 タブリーズ

1295 ガザン・ハン (1295-1304) の時、イスラム国教化
宰相ラシード=アッディーン (歴史家「集史」)

<中心はバグダードからカイロへ>

◎エジプト

アイユーブ朝 (1169-1250) ……建国者 サラディン (Salah-al-Din、クルド人)
第3回十字軍を撃退、ファーティマ朝を滅ぼし建国 (エジプトにスンナ派復活)

マムルーク朝 (トルコ系、1250-1517) ……第5代バイバルス (1260-77)
モンゴル軍を撃退、メッカ・メディナの二聖都の保護者
アッバース朝カリフの末裔を保護
首都カイロはバグダードにかわりイスラム世界の中心に

<西方イスラム世界>

◎北西アフリカ～イベリア半島

ベルベル人……北西アフリカ（マグリブ地方）の住民、11世紀に熱狂的なイスラム化

ムラービト朝（1056-1147）・ムワッヒド朝（1130-1269）……首都 マラケシュ
モロッコからイベリア半島にかけて支配

⇕

イベリア半島のキリスト教徒による「レコンキスタ」に敗退

ナスル朝（1232-1492）……イベリア半島最後のイスラム王朝
首都 グラナダ の アルハンブラ 宮殿
1492 スペインにより滅ぼされる

3. インド・東南アジア・アフリカのイスラム化

<インド>

ガズナ朝（トルコ系、962-1186）……インドのイスラム化の初め

ゴール朝（イラン系、1148-1215）……アフガンに根拠を置きガンジス下流まで支配

デリー・スルタン朝（1206-1526）……インドの デリー を首都とする5つの王朝

① 奴隷王朝（1206-90、トルコ系）……ゴール朝の将軍 アイバク が建国

※主な君主3人がそれぞれ前任者の奴隷だったことからこの名称がある。

② ハルジー朝（1290-1320、トルコ系）

③ トゥグルク朝（1321-1414、トルコ系）

④ サイイド朝（1414-1451、トルコ系）

⑤ ロディー朝（1451-1526、アフガ系）→ムガル帝国に滅ぼされる

<東南アジア>

最初のイスラム王朝……マラッカ 王国（15c.～1511）

マライ半島・スマトラ島を支配

↓

ジャワ島のマジャパヒト王国（ヒンドゥー教）を圧倒

→16c. イスラムのマタラム王国成立

<西部内陸アフリカ>

ガーナ 王国（8c.～1076）……ムスリム商人が塩を持ってきて、同地産の金と交換
1076年、ムラービト朝による征服→イスラム化

マリ 王国（1240-1473）……黒人のマンディンゴ人

首都 トンブクトゥ ……内陸アフリカのイスラム学問の中心

1324 マンサムーサ王のメッカ巡礼（途中カイロで物価暴騰をおこす）

ソンガイ 王国（1473-1591）……黒人のソンガイ族がマリ王国を滅ぼし建国

<東岸アフリカ>

モガディシュ、マリンディ、モンバサ、ザンジバル、キルワなど

……イスラム商人のインド洋貿易の拠点

アラビア語の影響を受けた共通語 スワヒリ語

（ウーヒーリー＝アラビア語で「海岸地帯の人々」）

モノモタパ 王国（14～15世紀が最盛期）、ジンバブエ遺跡

イスラム諸王朝年表

世紀	イベリア 半島	北アフリカ	エジプト	中近東	イラン	中央 アジア	インド
7	西ゴート 711滅亡		632-61 正統カリフ時代		651 ササン朝滅亡		ヴァルダナ朝 ~~~~~ 分裂時代
8			661-750 ウマイヤ朝				
9	756-1031 後ウマイヤ朝		750-1258 アッバース朝				
10			909-1171 ファーティマ朝		932-1055 ブワイフ朝	サーマン朝	
11					1038-1194 セルジューク朝	カラハン朝	
12	ムラービト朝					ガズナ朝	インドのイスラム化
13	ムワッヒド朝		1169-1250 アイユブ朝	ルム・セル ジューク朝		ホラズム朝	ゴール朝
14	ナスル朝		1250-1517 マムルーク朝		1258-1353 イル・ハン国	チャガタイ・ハン国	奴隸王朝
15					1370-1507 ティムール朝		ハルジー朝 トゥグルク朝
16	1492 スペイン		1453 ビザンツ帝国を滅ぼす				サイイド朝
17			1299-1922 オスマン朝トルコ帝国		1501-1736 サファヴィ朝	ウズベク族 3ハン国	ロディー朝 1526-1858 ムガル帝国

4. イスラム文明の発展

<特徴>

- ①. 融合文明…イラン、トルコ、インドなどの文化の融合 代表例＝「千夜一夜物語」
- ②. 普遍的文明…地域・民族の特色を越えて各地にイスラム文化圏を形成
アラビア語とイスラム教を共通項とする
古代ギリシア文明を中・近世のヨーロッパ人に橋渡し→ルネサンスに大きな刺激

※紙…タラス河畔の戦いで製紙法入手→サマルカンド、バグダード、カイロに製紙工場
→13世紀にヨーロッパへ

<社会>

都市を中心として発展…礼拝所（モスク）、学院（マドラサ）、市場（バザール）など
軍人、商工業者
ウラマー…法学・神学などイスラム諸学を修めた知識人（※“聖職者”ではない）

<学問>

- ・神学、法学…「コーラン」に基づく

神学者 ガザリー（1058-1111、イラン）…神秘主義を容認
セルジューク朝宰相ニザム＝アル＝ムルクの設立したニザーミア学院教授

スーフィズム（神秘主義）…コーラン朗唱・踊りなどで神との一体感をもとめる。

- ・歴史…上2学の補助として、ムハンマドに関する伝承の収集・研究

イブン・ハルドゥーン（1332-1406、マムルーク朝）

『世界史序説』…理論的歴史学

農耕民と遊牧民の対立が歴史発展の原動力である、と説く

- ・数学…十進法と ゼロ の観念をインドから学ぶ

フワーリズミー（9世紀、イラン）…代数学（アルジェブラ）、三角法の祖、天文学も

- ・物理…光の屈折理論（イブン・アルハイサム、965-1039、イラク出身、フアティマ朝へ）

- ・化学…錬金術（アルケミ）から発達

→ヨーロッパに伝わり近代科学の基になる（アルコール、アルカリなどの‘アル’はアラビア語の定冠詞）

- ・美術・工芸…細密画（ミニアチュール）、アラベスク（唐草文やアラビア文字の図案化）

- ・建築…モスクには、光塔（ミナレット）が附属、メッカの方角の壁の窪み（ミフラープ）

↑礼拝時刻の呼びかけ用

- ・文学

ウマル・ハイヤーム（1048-1131、イラン、セルジューク朝）

『四行詩集（ルバイヤート）』（ペルシア語による）

※天文学者としても有名

太陽暦「ジャラリ暦」はグレゴリ暦よりも正確だが計算が煩雑で一般には普及せず

- ・哲学…古代ギリシアの アリストテレス の哲学を学ぶ ←ササン朝の首都クテシフォンで入手

「コーラン」編纂に役立てる

ギリシア哲学の論理性を学びスンナ派の神学体系樹立

※代表的哲学者にして医学者

イブン・シーナー（ラテン名 アヴィケンナ、980-1037、サーマン朝）…『医学典範』（→サレルノ校 etc.）

イブン・ルシュド（ラテン名 アヴェロエス、1126-98）…コルドバ出身（ムワヒド朝）

2人の著作はラテン語訳されヨーロッパへ → “12世紀ルネサンス”

- ・地理…旅行家 イブン・バトゥータ（1304-77、モロッコ）「三大陸周遊記」

※元まで旅行したとされていたが、近年の研究によればインド以東には行っていない模様